

ビバーエアコン 据付説明書 冷媒R410A

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事前はこの説明書を必ずお読みください。



家庭用マルチエアコンにはGWP（地球温暖化係数）が2090のフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移動・修理・廃棄などにあたってはフロン類の回収が必要です。

安全のために必ずお守りください

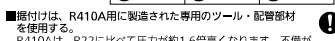
- ご使用の前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していませんので、必ず守ってください。

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるものがあります。

- 可燃性ガスが漏れるおそれのある場所への据付けは行わない。
万一ガスが漏れて室外機の周囲にたまると、燃発の原因になります。
- 電源電線の中間接続は行わない。
接続は、分岐箱または、許容電圧オーバーなどにより、感電・火災の原因になります。
- 電源電線や内外接続電線は、破損や劣化、ネジなどで傷つけない。
電源電線や内外接続電線に傷がつくと、感電・火災の原因になります。
- 据付けや移動の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外のものを注入させない。
空気などを注入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 指定冷媒には使用（冷媒補充・入替）しない。
機器の故障や破損、ケガなどの原因になります。
- 改造はしない。
配管・配線、ケガ・火災の原因になります。
- 販売・お買い上げの取扱店または専門業者に依頼する。
据付けには専門の知識と技術が必要です。
お客さま自身で据付工事を行わない。水漏れや感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、据付説明書に従って行う。
据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付け時、安全のため適切な保護具・工具を使用する。
不備の原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足すると据付けごと、ユニットが落下し、ケガの原因になります。
- 据付工事部は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。
指定指定部品を使用しない、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」・「内務省令」を遵守する。据付説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧ブレーカーを使用する。
電圧の適合や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は、換気する。
冷媒が火災に燃えると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 室内機と室外機の配管は、指定の内外接続電線を使用して接続する。電子制御の配管は、指定の内外接続電線が破損しないように確実に固定する。中間接続は、絶対に行わない。
接続や固定に不備があると、火災の原因になります。
- 内外接続電線は、必ず単線を使用する。より線は絶対に行わない。
接続や固定に不備があると、火災や感電・火災の原因になります。
- 室内機の電源端子カバーおよび室外機のサービスパネルを確実に取り付ける。
不備があると、水・ほこりなどにより、感電・火災の原因になります。
- 電子制御電線を接続する際には芯線がはみ出さず確実に押し込み各端子の接点に押しつけてください。
接点に押しつけていない状態で接続すると、感電・火災の原因になります。
- ポンプダウン作業は、冷媒管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したまま、ストップバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破損・ケガなどの原因になります。

- 据付工事終了後、●「据付け・据付工事後の確認」を必ず確認し、本説明書をお読みください。
- お読みいただき、「取扱説明書」「保証書」とともに大切に保管していただくように依頼していただきます。

「取扱説明書」は室内機に同梱されています。
「保証書」の裏表は次の通りです。



- 据付けは、R410A用に製造された専用ツール・配管部材を使用する。
R410Aは、R22に比べて圧力が約1.6倍高くなります。不備があると破損、ケガの原因になります。
- 据付作業は、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を接続する。
冷媒配管を接続していない状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転しない。空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破損・ケガなどの原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチを用いた指定の方法で締め付ける。
フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後フレアナットが破損し、冷媒漏れの原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。
冷媒が、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管や配線を保護する。
配管や配線が破損し、ケガなどの原因になります。
- 電気設備が破損した場合の電線交換などは専門業者に依頼する。
電気設備は、感電・火災の原因になります。
- 冷媒配管は、JIS H 3300「銅および銅合金製圧入管」のC1220のリン酸塩銅管を使用し、配管接続を確実に行う。
配管接続に不備があると、アース接続が不十分となり感電の原因になります。
- 接地（アース）工事を確実に行う。
アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない。接地（アース）工事に不備があると、感電の原因になります。
- バルブの開閉動作時には保護具を着用する。
低気圧環境でのバルブの開閉動作時に、バルブ本体と弁操作部の隙間から冷媒が漏れるおそれがあります。

注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家庭・家財などに被害が生じることがあります。

- 室外機は、小動物のすみかになるような場所には据付けしない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や感電・火災の原因になることがあります。
- 室外機は、お住まいの周囲をきれいに保つてをお願いします。
腐食性の酸やアルカリにさらさない。
- ケガの原因になることがあります。
- 据付作業は、据付説明書に従って確実に行う。
エアコンから水が落ちて床や家具などを濡らし、汚損の原因になることがあります。
- 冷媒配管と内外接続電線との配管を合わせないで運転しない。
エアコンからの漏れや圧縮機故障の原因になります。
- 使用していない配管接続部のフレアナットがしっかりと締まっていることを確認する。
フレアナットが緩く締まると漏れやガス漏れの原因になります。
- 新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のフックかけ時には工場の搬送を要する。
搬送時にエアコンが破損する場合は十分に換気を行ってください。フックなどの荷役設備がエアコン内部に付着し、水漏れや感電の原因になることがあります。

3 据付場所の選定

お客さまの同意を得て据付けてください。
騒音規制や消防法などを遵守できる場所を選定してください。

- 次のような場所でご使用になりますとエアコンの故障の原因または悪臭・有毒ガスが室内に入ることがありますので、避けてください。
- 機械油が多い所。●海浜地区など塩分の多い所。●温泉地区などの硫化ガスが発生する所。
 - その他周囲のふん気が特殊な所。
 - 油の漏れや油煙がたこめる場所。
調理機器や機械工場などではプラスチックが変質破損することがありますので、ご使用は避けてください。
 - 電波機器、無線機器などがある所。（誤動作します）●レーン車、船舶など移動するものの据付け。
 - 屋内で、人が生活する空間以外への室内機の据付。（天井裏、小屋裏、壁内、床下など）
 - アンモニアなど腐食性ガスが多いところ。（多数の動物を飼っている部屋など）

- 強風に当たらない所。（運転運転中、室外機に風が当たると運転時間が長くなります）
- 風通しの良いはけが少なく所。
- 雨や直射日光が当たらない所。
- 振動により室外機が壊れない所。
- 運転音や熱風、冷風が近所の迷惑にならない所。
- 運転音や振動が増大しないような丈夫な壁や強固な台。
- 可燃性ガスの漏れるおそれがない所。
- テレビ・ラジオのアンテナより3m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります）
- 高所に設置する場合は、室外機の足を必ず固定していただきます。
- 室外機は水平に設置してください。
- 後々のサービス・補修などを考慮した場所を選定してください。
- 周囲に障害物がある場合は、右記イラストの必要寸法を確保してください。
- 風通しが悪くショートサイクルが起きやすい場合には吹出ダクト（別売部品）を付ける。冷暖房能力および消費電力の改善が図れます。
- 4方向を壁に囲まれた狭いベランダに設置する場合、少なくとも下の面のようにスペースをあけてください。ただしこの場合は冷暖房能力および消費電力は10%程度低下する場合があります。

- 注：複数並列の据付けはできません。
-
- 梱包開梱時、ユニットに青色PETテープが貼られている場合は取外してください。

4 既設配管を再利用される場合の留意事項

- 配管に残った油を白い布やティッシュで受けた際、灰色系の油になっているときは、モーター焼付きの可能性があります。その場合は、配管洗浄・配管取替工事を実施してください。
- 配管の内厚が0.8mmあることを確認してください。（JIS規格の配管）
- フレアは冷媒R410A用の寸法で作直してください。

ポンプダウンの手順（強制冷房運転）

- 移動または廃止時に、環境に配慮して冷媒を大気へ放出しないため、下記の手順に従ってポンプダウンを行ってください。
- ①室外機の高圧側ストップバルブのサービスポートにマニホールドバルブ（圧力計付）を接続し冷媒圧力が測定できるようにする。
 - ②室外機の高圧側ストップバルブを全閉する。
 - ③室内機の冷房運転スイッチにより冷房運転を停止する。
 - ④圧力計が0.05～0.08MPa（ゲージ）（約0.5～0.8kgf/cm²）になったら全室のガス側ストップバルブを全閉にして冷房運転を停止する。
- （運転停止の方法は室内機の種類によって異なります。室内機の据付説明書などを参照ください）
- これでポンプダウン作業終了です。電源は必ず切ってください。

警告 ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したまま、ストップバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破損・ケガなどの原因になります。

1 使用部品

（●使用箇所、●室外機の据付手順を参照して確認してください）

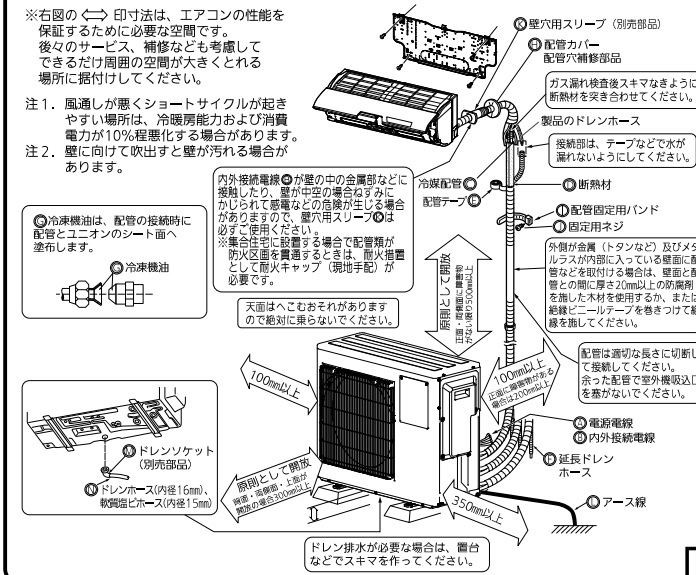
現地で準備していただく部品（別売部品および一般市販部品）				
部品名	数量	部品名	数量	
① 電源電線 VVFケーブル（2芯）φ2.0mmまたはφ2.6mm	1	② 配管穴補修部品 バテ、カバー（または石膏など）	1	
③ 内外接続電線 VVFケーブル（3芯）φ2.0mm※	1	④ 配管固定用バンド（配管長さにより異なります）	2～7	
⑤ 冷媒配管「配管サイズの選定」による	1	⑥ ⑦の固定用ネジ（配管長さにより異なります）	2～7	
⑧ 断熱材 室内機据付説明書による	1	⑨ 壁用スリーブ（別売部品）	1	
⑩ 配管テープ（配管長さにより異なります）	1	⑪ アース線（φ1.6mm以上または断面積2mm ² 以上）	1	
⑫ 延長ドレンホース（室内機据付説明書による）	1	⑬ ドレンソケット（別売部品）	1	
⑭ 冷凍機油	少量	⑮ ドレンホース（内径16mm）、軟質塩ビホース（内径15mm）（ドレンソケットを接続する場合に使用）	1	

※内外接続電線は将来のリプレースなどを考慮しφ2.0mmを推奨いたしますが、φ1.6mmも使用できます。
●上記部品表①～⑮の数量は室内機1台当たりの使用数です。

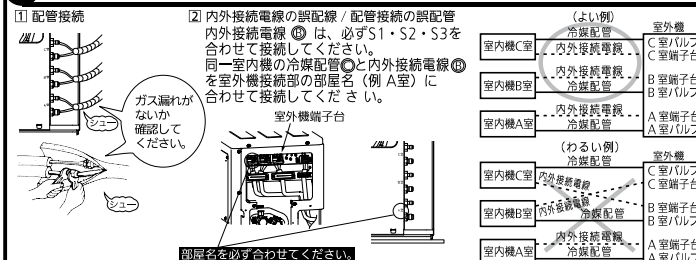
2 使用箇所

室内機据付けの制約

- この室外機に接続できる室内機には、下記の制約があります。
- 接続できる室内機の種類、能力については、同梱された「ビバーエアコン「フリーマルチ」仕様表」に従って据付けてください。
- 室内機の据付けは、各々の室内機に同梱された据付説明書によって行ってください。



5 据付工事は以下の点に特に注意してください。

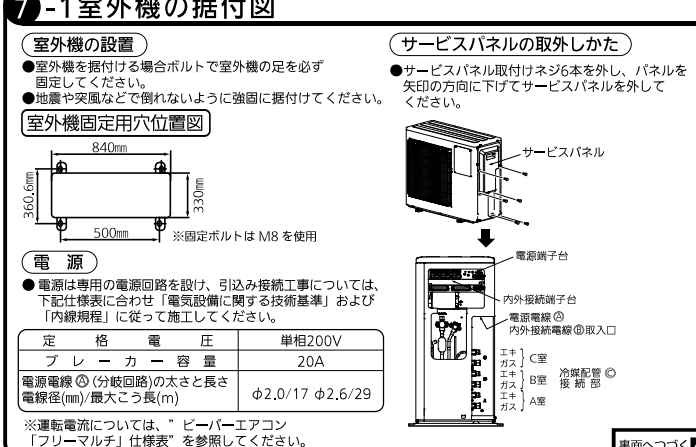


6 ドレン配管

- ドレン処理について
室内機と室外機の配管接続より先にドレン処理を行ってください。（室内機と室外機の配管接続後に行くと、室外機が動かなくなり、ドレンソケット⑨が取り付けにくくなります）
市販のドレンホース（内径16mm）⑩を接続してドレン水を導いてください。
ドレン配管はドレンホースが流れやすいように必ず下向きに配管をつけて配管してください。
※詳細は別売部品の中に入っている説明書をご覧ください。
- 寒冷地における注意事項
寒冷地では、ドレン水が凍結し、ファンが回らなくなるおそれがありますので、ドレンソケット⑨は取付けないでください。

7 室外機の据付手順

7-1 室外機の据付図



7-2 配管工事

R410A用として下表の専用ツールが必要となります。

工具名 (R410A用)			
マニホールドバルブ	フレアツール	トルクレンチ	ガス漏れ検知機
チャージホース	出し代調整用調整ゲージ	真空ポンプ用アダプター	冷媒充填専用電子はかり

内外接続配管長・高低差

お願い

- この機種は内外接続配管長の合計で40m分の冷媒を室外機に封入してありますので40mを超える場合は冷媒の追加が必要となります。また下表が冷媒配管の許容値ですので、この長さを超える工事をしないでください。追加冷媒量は③「真空引き・リークテスト」を参照してください。
- 接続部・配管内部に水・バリ・砂などが入ると、圧縮機の故障や、性能低下につながります。配管加工時や接続時に水・バリ・砂などが入らないように十分注意するとともに、配管接続後は真空引きを必ず実施してください。

冷媒配管許容値	
室内機1台当りの内外接続配管長	25m以内
内外接続配管長の合計	50m以内
室内機-室外機間の高低差	下層参照
室内機1台当りの配管曲がり箇所	25か所以内
配管曲がり箇所総数	50か所以内



配管サイズの選定

配管サイズ：室内機に同梱された据付説明書に従ってください。

配管の準備

1. 冷媒配管③は、下記の仕様のものを使用してください。
2. 断熱材は、室内機に同梱された据付説明書に従ってください。
3. 冷媒配管③は、漏れ防止のために2本とも確実に断熱してください。
4. 冷媒配管③の曲げ半径は100mm以上にしてください。

冷媒配管			
液管	外 径	肉 厚	材料および規格
ガス管	φ6.35mm (1/4")	0.8mm	リン酸鋼線 C1220T JIS H 3300
	φ9.52mm (3/8")	0.8mm	リン酸鋼線 C1220T JIS H 3300

配管加工

パイプ切断

- パイプの長さに余裕 (300~500mm) を見て切断してください。

バリ取り

- 切粉が配管内に入らないよう下向きに行ってください。

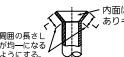
フレアナット挿入

- 向きに注意して挿入してください。

フレア加工

フレアリングツール

パイプ径		A (mm)	
1/4"	3/8"	1/2"	3/4"
φ6.35mm (1/4")	φ9.52mm (3/8")	φ12.7mm (1/2")	φ19.0mm (3/4")
φ6.35mm (1/4")	φ9.52mm (3/8")	φ12.7mm (1/2")	φ19.0mm (3/4")



- パイプ曲げ加工は十分注意して、パイプをつぶしたり折らないようにしてください。

配管の接続

室内機の接続

- ①パイプとユニオンのシート面には、冷凍機油を塗布してください。ネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。過剰な締め付けによるネジ部破損の原因になります。
- ②接続は中心を合わせ、フレアナットは最初の3~4回転を手で締めます。
- ③室内側ユニオン部の締め付けは下表を目安にして必ず2丁スバナーでトルクレンチを使用して締め付けください。締め過ぎると、フレア部を破損します。

パイプ径	締め付けトルク
φ6.35mm (1/4")	14~18N・m (140~180kgf・cm相当)
φ9.52mm (3/8")	34~42N・m (340~420kgf・cm相当)

室外機の接続

- 室内機と同様に、室外機の各配管接続口へパイプを接続してください。
- 締め付けはトルクレンチを用いて、室内機と同じ締め付けトルクで行ってください。

警告

注意

据付作業時は、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付け、冷媒配管を取り付けた状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転しない。空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。

使用しない配管接続口のフレアナットがしっかりと締まっていることを確認する。フレアナットがしっかりと締まっていないとガス漏れの原因になります。

7-3 真空引き・リークテスト

地球環境保護の観点からエアバージは必ず真空ポンプ方式でお願いします。

- ハンドバルブを完全にしたままで、以下の作業中は操作は行いません。
- マニホールドバルブ使用方法の詳細はマニホールドバルブの取扱説明書をご覧ください。
- 真空引き作業は全室で行ってください。
- 内外接続配管長分の追加冷媒は以下のチャートをご参照ください。

配管接続が確実に行われたか確認する。ストップバルブ (ガス管側、液管側) の弁が全閉になっていることを確認する。ストップバルブ (ガス管側) のサービスポートマニホールドバルブのチャージホースの突起部 (虫ピンを押す側) を接続し、チャージホースを真空ポンプに接続する。

- 注 1. 冷媒を真空ポンプで取り出す際は、ポンペの液相から冷媒を吸っていただく。ただし、液冷媒を一気に吸い込んでしまうと圧縮機が故障するおそれがありますので、徐々に吸っていただく。
2. サービスポートのキャップ及び弁棒用キャップは必ず取り付けてください。

マニホールドバルブのハンドバルブを完全にし真空ポンプを運転する。ガス管側のフレアナットを少しゆるめエアが入っていることを確認し、再度フレアナットを締める。(エアが入っていない場合はチャージホースがサービスポートへしっかり接続されているか再確認してください)

真空引きを15分以上行い圧力計が-0.1MPa (ゲージ) (-760mmHg) になっていることを確認する。

真空引きが終わったらマニホールドバルブのハンドバルブを完全にし真空ポンプ側のチャージホースをゆるめ、エアを吸込ませてから真空ポンプの運転を止める。

3分程度このままの状態にして針が戻らないことを確認し、ストップバルブ (ガス管側、液管側) の弁棒を六角レンチ (4mm) で反時計方向に当たるまでいばいにまわし、全開にする。ストップバルブに当たったら、それ以上に力を加えない。

内外接続配管長の合計が40mを超える場合

追加冷媒量は20X (内外接続配管長の合計-40)g

追加冷媒不要

ストップバルブ (ガス管側) のサービスポートよりチャージホースを外す。

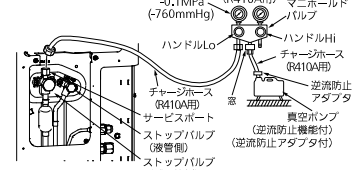
サービスポートのキャップとストップバルブ (ガス管側、液管側) のキャップをトルクレンチで締める。

締め付けトルク14~18N・m (140~180kgf・cm相当)

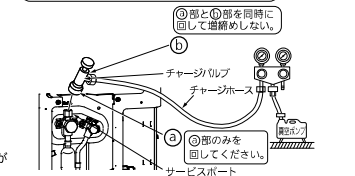
締め付けトルク20~30N・m (200~300kgf・cm相当)

リークテストを行い、ガス漏れがないことを確認してください。

警告



チャージバルブを使用する場合のお願い



チャージバルブをサービスポートに接続する際に締め過ぎるとバルブコア (虫ピン) の変形・緩みによるガス漏れのおそれがあります。

- 部①のみを回して締め込んでください。
- バルブコア (虫ピン) を押込んだ状態 (開いた状態) で部②を増締めするとバルブコア (虫ピン) が変形するおそれがあります。
- 部②と部③ (チャージバルブ本体) を同時に回して増締めしないでください。

- 締め付けトルクが大きすぎると、フレア部を破損し、ガス漏れの原因になります。
- フレア部が破損すると、増締めしてもガス漏れは止まりません。

- ガス漏れの場合
- フレアナット接続部を締め直してください。
- 増締めを行っても止まらない場合は、冷媒回収によりエアコン内に冷媒が無くなり状態になり、漏れ箇所を修理後、再接続して真空引きを行い、規定量を充てていただく。

7-4 断熱とテーピング

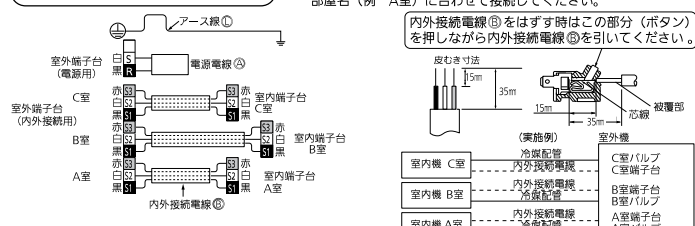
- ①室内側はパイプカバーで接続部の配管をおおいます。
- ②室外側はバルブ部までしっかり断熱してください。

天井裏や押し入れなどの高温、多湿な場所に配管を通す場合には、漏れ防止のため、更に市販の断熱材を巻き加えてください。

7-5 内外接続電線と電源電線の接続

内外接続電線と電源電線の接続

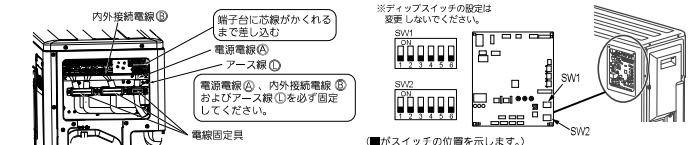
- 同一室内機の冷媒配管③と内外接続電線④を室外機接続部の部屋名 (例 A室内) に合わせて接続してください。



警告

注意

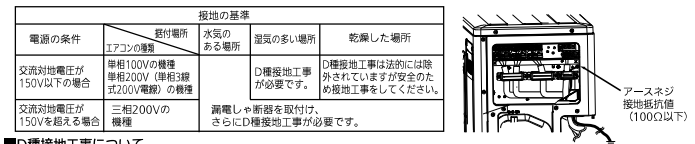
- 端子台へ電線を接続する際には芯線がかくれるまで確実に押し込み各々の線が引っ張って抜けないことを確認してください。挿入が不十分だと端子台が焼損することがあります。
- 冷媒配管③と内外接続電線④を同一室内機に接続する。冷媒配管③と内外接続電線④の部屋名を合わせないで運転した場合、室内機からの露垂れや圧縮機故障の原因になります。
- サービス時を考慮し、電源電線④、内外接続電線④およびアース線⑤には余裕をもたせてください。
- 電源電線④、内外接続電線④およびアース線⑤を端子台に接続後、必ず電線固定具で電源電線④、内外接続電線④およびアース線⑤を固定してください。



7-6 アースの取付け

このエアコンは必ず接地工事をしてください。

- 接地工事は、「電気設備に関する技術基準」に従って電気工事士の資格のある方が実施してください。



- D種接地工事について
- 接地工事は電気工事士の資格のある方が実施してください。
- 接地抵抗値は100Ω以下であることを確かめてください。
- 漏電遮断器を取付けた場合は500Ω以下であることを確かめてください。

8 据付時・据付工事後の確認

確認日

確認者名

□の中に○印をいれて確認してください。確認後、この据付説明書をお客さまにお渡しください。

- | 据付時 確認 | 据付後 確認 |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 専用回路を設けてありますか? | <input type="checkbox"/> ストップバルブの弁棒は全開ですか? |
| <input type="checkbox"/> 電源電圧は規定とおりですか? | <input type="checkbox"/> ドレンホースの接続は確実ですか? |
| <input type="checkbox"/> フレアコア容量は規定とおりですか? | <input type="checkbox"/> 水を流してドレン排水を確認しましたか? |
| <input type="checkbox"/> 内外接続電線④および電源電線④の端子台への挿入は確実ですか? | <input type="checkbox"/> 室内機本体側配管収納部の配管はフルテープを巻きましたか? |
| <input type="checkbox"/> 内外接続電線④および電源電線④の固定は確実ですか? | <input type="checkbox"/> 据付場所の強度はエアコンの重量に十分耐えられる場所、騒音や振動が過剰なところですか? |
| <input type="checkbox"/> 内外接続電線④および電源電線④の中間接続は行っていますか? | <input type="checkbox"/> 室内機の下に家具、カーテンボックスなどがあり、吹出空気をさえぎっていませんか? |
| <input type="checkbox"/> 冷媒配管③と内外接続電線④との組合せ (A室、B室、C室) は正しいですか? | <input type="checkbox"/> 室内機の吸入口に異物がありますか? |
| <input type="checkbox"/> アース線⑤の接続は確実ですか? | <input type="checkbox"/> 試運転は行いましたか? |
| <input type="checkbox"/> 冷媒R410Aが充填された、指定肉厚の配管を使用しましたか? | <input type="checkbox"/> ドレン工事を適切に行い、異音 (ポコポコ) が発生しないことを確認しましたか? |
| <input type="checkbox"/> 配管接続部のリークテストを行いましたか? | <input type="checkbox"/> 「安全のために必ずお守りください」の△警告△注意の項目を確認しましたか? |
| <input type="checkbox"/> 真空引きを行いましたか? | <input type="checkbox"/> 室内機の据付説明書を確認しましたか? |

お客さまへの説明

- 取扱説明書に従って、運転・操作・室内機の清掃方法などを正しく、わかりやすく説明してください。
- 実際に使用される方が不在の場合は、発注者や管理される方などに説明してください。
- とくに「安全のために必ずお守りください」の項は安全に関する重要な注意事項を記載していますので必ず守るように説明してください。

9 試運転 (必ず実施してください)

試運転以外での長時間の運転はおやめください。試運転中の運転で長時間運転するとほこりやにおいが付着する場合があります。

- 試運転の前に⑨「据付時・据付工事後の確認」の実施と、室内機に同梱された据付説明書の「試運転」の項を確認してください。
- 電源は定格電圧と合っているか、必ず確認してください。
- 冷媒配管③と内外接続電線④の接続間違いを検出するために、はじめに冷房で各室内機1台ずつ試運転を実施してください。
- 冷媒配管組合せ点検機能により、冷媒配管③と内外接続電線④の組合せが正しいか確認することができます。接続間違いは判定不可となった場合、冷房で各室内機1台ずつ試運転を実施し、組合せを確認してください。
- 接続間違いがあった場合、正しい組合せに修正してください。
- できる限りお客さま立会いで試運転を実施してください。
- 「配管配線組合せ点検機能の手順」
- ①電源が投入されてから1分以上経過後、室外制御基板のSW871を押して点検を開始してください。(②へ。)
- ②点検結果が表2の判定不可となった場合、SW871を押して点検機能を解除し、各室内機を1台ずつ冷房運転させて、冷媒配管③と内外接続電線④の接続を確認してください。
- ③接続修正後、冷房で各室内機1台ずつ冷房運転させて、冷媒配管③と内外接続電線④の組合せが正しいか確認してください。(終了。)
- ④点検結果が表2の判定不可となった場合、冷媒配管③と内外接続電線④の組合せが正しいか確認してください。(判定結果を表示してください。(④または⑤へ。))
- ⑤判定結果が表2の判定不可となった場合、冷媒配管③と内外接続電線④の組合せが正しいか確認してください。(終了。)
- SW871を押して点検機能を解除してください。(終了。)
- ⑥判定結果が表3の接続間違いとなった場合、冷媒配管③と内外接続電線④の組合せが正しい可能性があります。SW871を押して点検機能を解除し、各室内機を1台ずつ冷房運転させて、冷媒配管③と内外接続電線④の組合せが正しいか確認してください。
- 冷媒配管③と内外接続電線④の接続を修正して、正常に運転できるように確認してください。(終了。)
- SW871周辺の充電部に触れないでください。通電中の操作のため、充電部に触れると感電のおそれがあります。
- 室外制御基板の破損を防ぐため、操作時の静電気を放電してください。
- 点検中は室外機から室内機の運転を操作しています。この間は室外機が自動で運転、停止しますが、異常ではありません。
- 外気温が0℃以下では配管配線組合せ点検機能は動作しません。
- 点検は10分から20分で終了します。
- 途中で点検を終了した場合、SW871を押してください。

表1. 点検中のLED表示

LED1 (赤)	LED2 (黄)	LED3 (緑)
点灯	点灯	点灯

表2. 配管配線組合せ点検結果

LED1 (赤)	LED2 (黄)	LED3 (緑)	内容
点灯	点灯	点灯	判定終了
点灯	点灯	点灯	判定終了
点灯	点灯	点灯	判定終了

表3. 配管配線組合せ点検結果

LED1 (赤)	LED2 (黄)	LED3 (緑)	内容
1回点灯	1回点灯	点灯	正常
3回点灯	3回点灯	点灯	接続不良

再起動防止機構が作動しますと機器の保護のため、3分間再起動防止機構が作動し、3分間は圧縮機が再運転しないようになっています。

注意

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックス掛け時にはエアコンの運転を止める。作業終了後にエアコンを運転する場合は十分に換気を行ってください。ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや腐食の原因になることがあります。